

第 2 学 年

1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」

ー 国語科「聞く・話す」の学習を通して ー

2 育てたい力

◆表現力

○知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら相手に分かるように話す。

◆コミュニケーション力

○相手の話を聞き、話題に沿って質問したり答えたりすることができる。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕 国語科の基礎基本の定着を図る活動の工夫

- ワークシートの工夫
- 話し方のパターン化
- ふりかえりカードの活用

〔視点2〕 「聞く・話す」力を高める学び合いの場の設定

- ペア・グループ・クラス全体

〔視点3〕 日常的な活動から

- 朝の会でのスピーチの工夫
- 授業中での発表
- 掲示物の工夫

第2学年 成果と課題

〔視点1〕国語科の基礎基本の定着を図る活動の工夫

- ワークシートの工夫・・・「ともさんはどこかな」の学習で大事なことを落とさないように書き込めるワークシートを工夫した。また、書くことに時間がかかる児童や書くことに抵抗のある児童もいることから、ポイントを絞り込んだワークシートを工夫したことで、大事なことを意識させながら話を聞き取らせることができた。

また、「あったらいいな、こんなもの」の学習では、学習の各段階にあったワークシートを工夫した。さらに、1次に活用したワークシートを2次にも使えるようにしたことで、児童は前回学習したワークシートの使い方や書き方を生かして、抵抗無くスムーズに学習を進めることができた。

- ▲児童の実態に合わせたワークシートを工夫して作る。

- 話し方のパターン化・・・「あったらいいな、こんなもの」のドラえものの道具の発表会では「話し方モデル」を作り、順序よく話したり内容が相手によく分かるように話したりできるように工夫した。児童によっては、「話し方モデル」を使うことで、安心して発表できたようである。話を聞き、分からないことやもっと知りたいことを質問したり、アドバイスをしたりするときに、何を質問したらいいのか、どんなアドバイスをしたらいいのか分からない児童のために「聞き方お助けカード」「話し合いお助けカード」を作り、困ったときに使用させた。話し合いが行き詰まったときなどに使うと有効なことが分かった。

- ▲「話し方モデル」・「お助けカード」の提示する場所や場面、内容などを吟味していく。

- ふりかえりカードの活用・・・学習を進めていく中で、本時の学習ねらいを意識させ、また学習のねらいがどれだけ頑張れたかをふりかえさせるためにカードを作った。学習のねらいをはっきりと意識させるという意味では、良かったと思う。

- ▲自己評価にあまい児童や厳しすぎる児童と様々だった。自己評価のさせ方や、それをどのように活用していくのかについて検討していく。

〔視点2〕「聞く・話す」力を高めるための学び合いの場の設定

- ペア・グループ・クラス全体・・・みんなの前で話すことは恥ずかしい・自信がない、という児童にとっては、ペアやグループで話す場面がとても有効だった。グループの人数は、3～4人から8～10人そしてクラス全体へと増やしていくことで、児童は話すことに抵抗が少なくなったり、自信が持てたりした。また、友だちの話を聞く経験を積んだことで、児童は聞く視点をはっきりと意識することができるようになった。

- ▲グループの数が増えると、児童の活動は活発になるが、教師は児童の活動の様子がかみにくくなる。

〔視点3〕日常的な活動から

- 朝の会でのスピーチの工夫・・・人の前で話すことができない児童には、文章に書いた物を読ませスピーチとした。書いてあることを読めばいい安心感から、みんなの前でも話すことができた。短い話で終わってしまう児童には、「3つの文にしてみよう！」などのアドバイスをすることで文章を長くすることができた。また、質問に受け答えることで話すことが増えた児童もいた。

- ▲同じ話の内容にならないように、生活のいろんな場面に目が向けられるような指導も大切だと思われる。

- 授業中での発表、○掲示物の工夫・・・教室に「話しかたじょうず」「聞きじょうず」という話すときのポイントと聞くときのポイントを掲示した。すべての学習場面での聞く・話すときの目当てになり良かった。

- ▲国語の基礎基本を図り、コミュニケーション力を高めていけるようなスキルが、各学年にあると良いと思う。